

BIM/CIM 活用業務・工事基礎研修【発注者用】
到達度テスト

問題文の内容が正しいと思う場合は「○」、正しくないと思う場合は「×」を記入してください。

NO.	問題文	回答欄（○×）
1	BIM/CIM の活用効果の一つであるフロントローディングとは、事業の最初の段階に、後工程で生じる仕様の変更や課題について、事前に集中的に検討し対応することで、その後の手戻り等を防ぎ、品質の向上や工期の短縮をはかることです。	
2	BIM/CIM は 3 次元形状を活用することで、事業計画や構造に対する分かりやすさが広がるため、建設生産・管理システムの効率化に向けて、事業の初期段階から積極的に細部の構造まで正確に作成する必要があります。	
3	BIM/CIM は、形状以上に引き継ぐ情報が重要であり、業務期間中に計画変更等とあわせて作り替える必要があることから、発注段階では、必要な図面等の情報が揃っていないだけでも問題ないので、まずは活用目的・項目を定めて実施することが重要です。	
4	BIM/CIM に係る費用は、現時点で受注者からの見積りによって決定する必要があります。このため、活用内容等に照らし合わせた項目となっているか適切に判断した上で決定する必要があります。なお、モデル作成等には専用ソフトウェアが必要ですので、受注者の負担軽減からソフトウェアの費用についても計上が必要です。	

BIM/CIM 活用業務・工事基礎研修【発注者用】

到達度テスト

解答・解説

BIM/CIM 活用業務・工事基礎研修【発注者用】
到達度テスト 解答・解説

NO.	解答	解説
1	○ (フロントローディング)	BIM/CIM の活用効果には、フロントローディングとコンカレントエンジニアリングがあります。BIM/CIM により、形状を 3 次元化することで分かりやすくし、必要な情報を関係者に引継ぎ、共有することで事業全体における一連の建設生産・管理システムの効率化を図っています。
2	× (事業段階や活用目的に応じて適切に更新していくことが重要)	令和 5 年度から BIM/CIM 原則適用により、直轄の業務・工事を対象として BIM/CIM の活用を進めています。3 次元モデルを作成は、どのように活用するかを意識することが重要で、目的に合わせた範囲・精度で作成する必要があります。例えば、道路事業でいえば、事業の初期段階で、橋梁などの構造形式が確定していない段階から、詳細な形状で作成する必要はありません。国土交通省では、原則適用時の作成するモデルの詳細度の目安等を 200～300 と定めており、中国地方整備局においても「BIM/CIM 活用の手引き(案)」をホームページで公開しているので参考にしてみてください。
3	× (データシェアリングの観点から発注段階で図面等の情報を確実に把握しておく必要がある)	BIM/CIM の活用効果を発揮する上で、発注時点での最新データを活用することが重要です。発注者の役割にデータシェアリングがあります。発注準備段階において、特記仕様書で BIM/CIM の活用内容を設定し、共有するデータの準備を行い、契約後、受注者に速やかにデータを共有し、BIM/CIM 実施に関する協議を行う必要があります。このため、共有するデータが最新であること、データの作成経緯やバージョン、データの新旧に注意して説明する必要があります。
4	× (ソフトウェア費用は含まない)	3 次元モデル作成に必要な経費は、令和 6 年度末時点で見積りとされていますが、ソフトウェア費用は含みません。活用内容と照らし合わせて不要なものが見積り項目として計上されていないか確認することが重要です。